

カリキュラム・マネジメント

～新学習指導要領とこれからの授業づくり～

横浜国立大学

名誉教授 高木 展郎



独立行政法人教職員支援機構

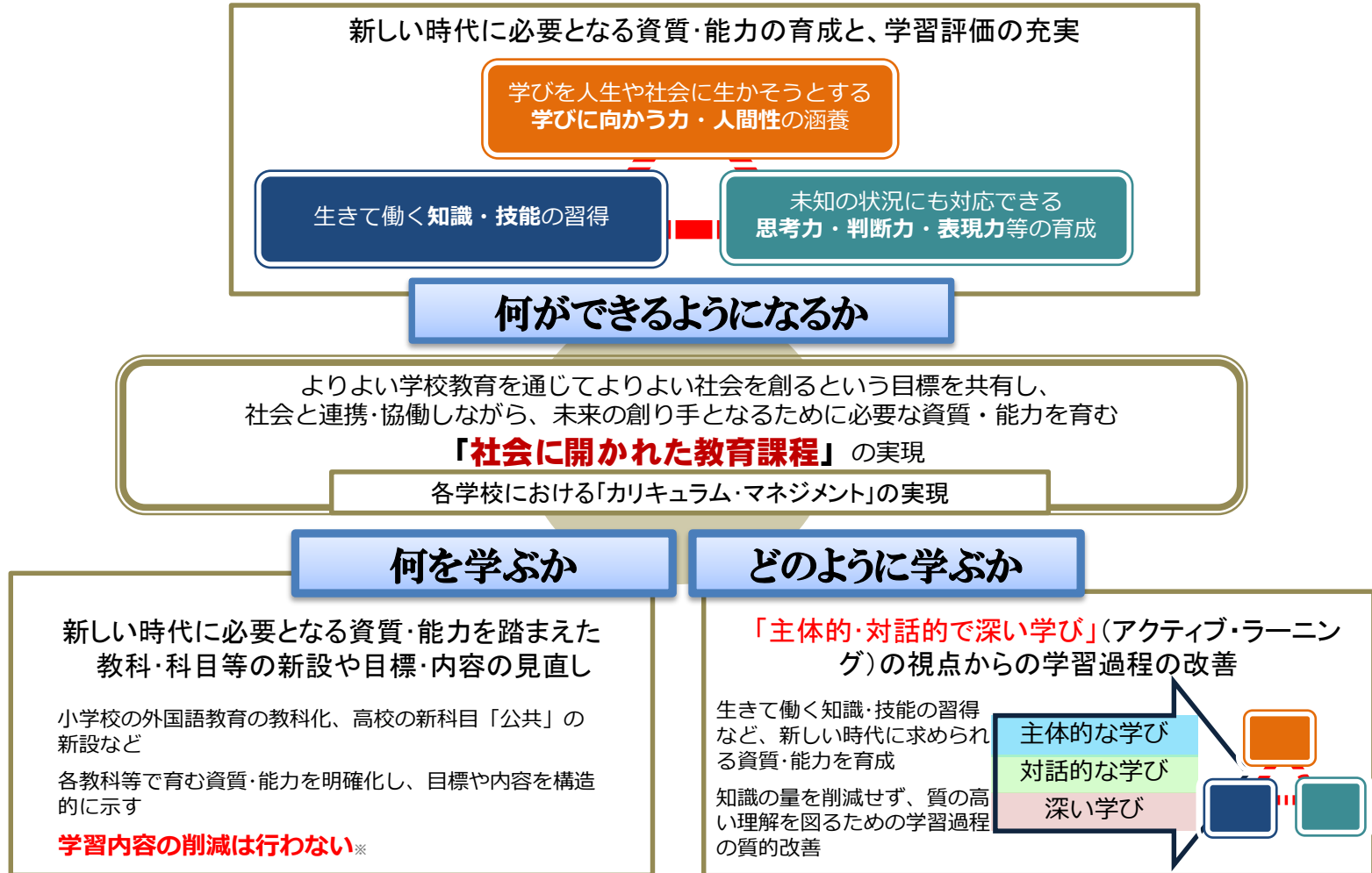
目次

1. 新学習指導要領が求める資質・能力
2. カリキュラム・マネジメントの意味
3. カリキュラム・マネジメントの具体

1. 新学習指導要領が求める資質・能力

1. 新学習指導要領が求める資質・能力

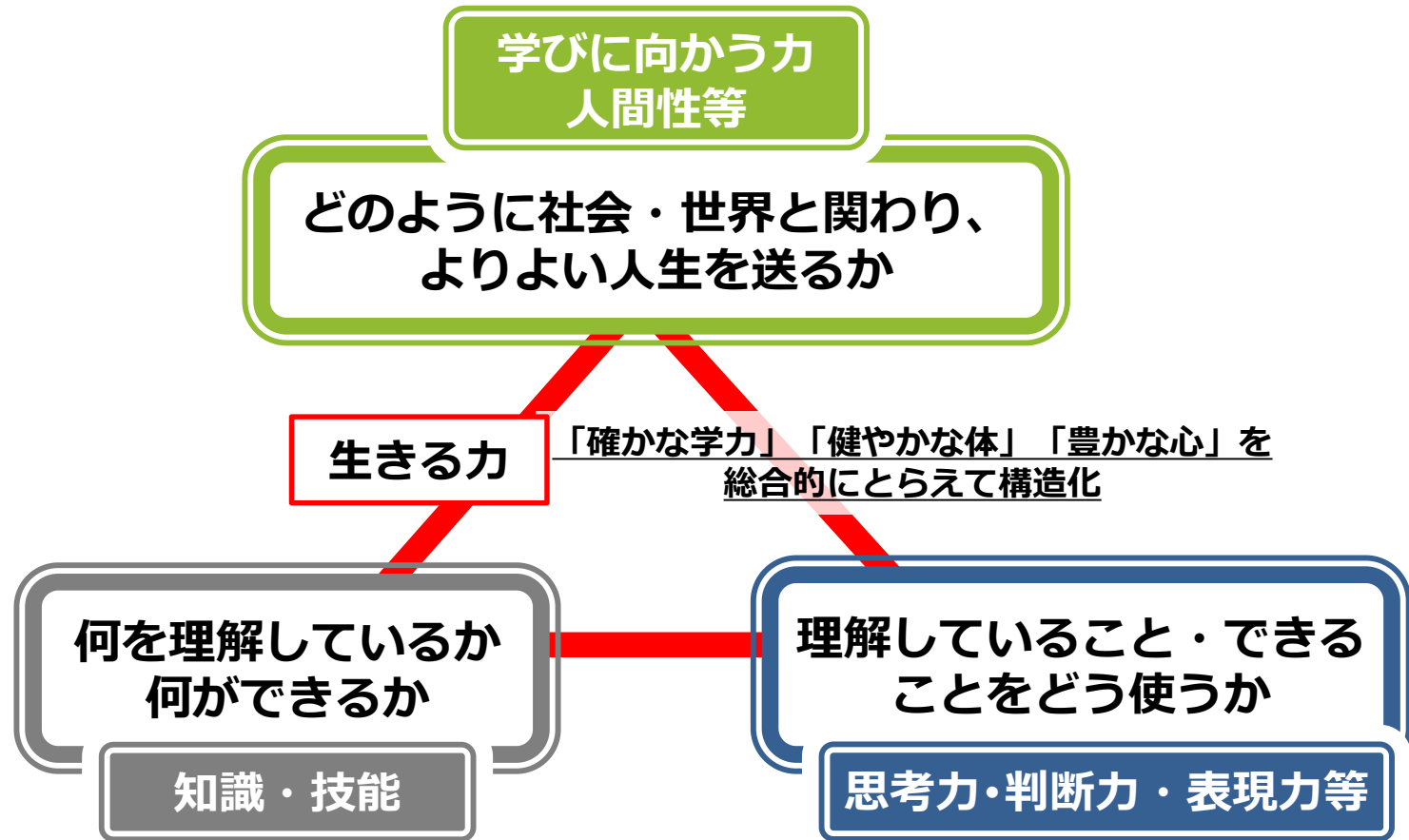
新学習指導要領の方向性



※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

1. 新学習指導要領が求める資質・能力

新指導要領が育成を目指す資質・能力の三つの柱



1. 新学習指導要領が求める資質・能力

Well-being (個人的・社会的により良く幸せに生きること)

OECDが提唱するこれからの社会に必要な資質・能力
Education2030 Learning Framework



The **OECD Learning Compass**
Transformative competencies to change
the future we want:

- Creating New Value
- Taking Responsibility
- Coping with Tensions and Dilemmas

- Global competency
- Financial literacy
- Media literacy
- Digital literacy
- Entrepreneurship
- Health literacy
- Environmental literacy
- Cultural literacy
- Democratic literacy
-etc

学びに向かう力 人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか



Creating
new Values

新しい価値の
創造

Taking
Responsibilities

責任ある
行動

Coping with
Tensions & Dilemmas

緊張や対立・ジレンマへ
の対処



1. 新学習指導要領が求める資質・能力

「生きる力」の内容とキー・コンピテンシー

平成8年（1996年）の中央教育審議会答申「生きる力」

変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の知・徳・体をバランスよく育てることが大切。

- **基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力 = 【確かな学力】**
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性 = 【豊かな人間性】
- たくましく生きるための健康や体力など = 【健康・体力】

※「生きる力」は、その内容のみならず、社会において子どもたちに必要となる力をまず明確にし、そこから教育の在り方を改善するという考え方において、OECDのいう「主要能力（キー・コンピテンシー）」を先取りしたもの

1. 新学習指導要領が求める資質・能力

学校教育法に示された学力

社会構造の変化による学力観の転換

「学校教育法」平成19年6月改正

第三十条

2 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、**基礎的な知識及び技能を習得させる**とともに、これらを活用して課題を解決するために必要な**思考力、判断力、表現力**その他の能力をはぐくみ、**主体的に学習に取り組む態度**を養うことに、特に意を用いなければならない。

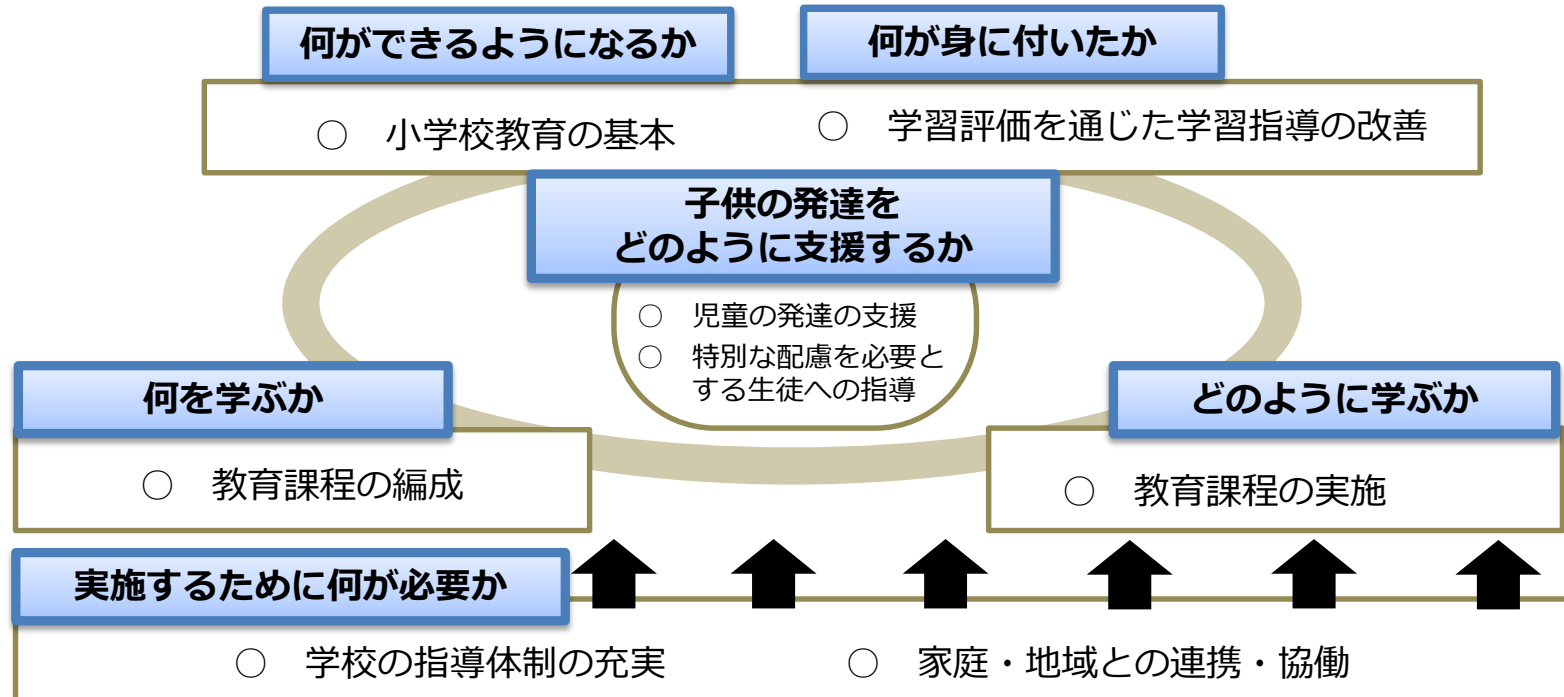
第四十九条で、中学校に準用 ※第六十二条で、高等学校に準用

2. カリキュラム・マネジメントの意味

2. カリキュラム・マネジメントの意味

学習指導要領総則の構造とカリキュラム・マネジメントのイメージ

教育課程の構造や、新しい時代に求められる資質・能力の在り方等について、すべての教職員が校内研修や多様な研修の場を通じて理解を深めることができるよう、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点から学習指導要領の要であり、教育課程に関する基本原則を示す「総則」を抜本的に改善し、必要な事項を分かりやすく整理。



2. カリキュラム・マネジメントの意味

新しい学習指導要領の枠組み

- ① **「何ができるようになるか」** 育成を目指す資質・能力
- ② **「何を学ぶか」** 教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成
- ③ **「どのように学ぶか」** 各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実
- ④ **「子供一人一人の発達をどのように支援するか」** 子供の発達を踏まえた指導
- ⑤ **「何が身に付いたか」** 学習評価の充実
- ⑥ **「実施するために何が必要か」** 学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策

(「答申」より)

2. カリキュラム・マネジメントの意味

カリキュラム・マネジメントの重要性

教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子供の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画であり、その編成主体は各学校である。各学校には、学習指導要領等を受け止めつつ、子供たちの姿や地域の実状等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくことが求められる。これが、いわゆる「カリキュラム・マネジメント」である。

(「答申」より)

2. カリキュラム・マネジメントの意味

カリキュラム・マネジメントの意味

- 学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を進めるため、地域や学校の実態等に即し、学校の特色を生かした適切な教育課程を編成、実施するとともに、絶えず評価、改善していくことを、カリキュラム・マネジメントという。
- 各学校では、教育課程の編成において、カリキュラム・マネジメントとして学校教育全体を通して育成すべき学力と、各教科等で育成すべき資質・能力との相関・関連を図りつつ、教育活動全体を主体的に改善していくことが重要となる。

2. カリキュラム・マネジメントの意味

なぜ、カリキュラム・マネジメントを行うのか

【チーム学校】

- 子供たちは、学校・学年・担任・教科担当を選ばない。
- 学校としての育成すべき資質・能力の保証
 ➡ 教育課程・学習内容の明示化
- 学校全体の教育課程・指導内容・子供たちの理解
- 一つの学年のみでなく、全教員で学校全体の取組を図る

○新学習指導要領における各教科等の内容の系統性

2. カリキュラム・マネジメントの意味

カリキュラム・マネジメントが求められる理由

「教科書**を**学ぶ」 ・ 「教科書**で**学ぶ」

教科書は、全国一律のもの

地域や学校の特徴は、考えられていない。

教科書に掲載されている指導内容は、一回限り

学習指導要領の内容を基に、各学校で教育課程の
編成

子供たちの実態に合った教育課程の編成

指導内容の繰り返しの指導が可能

2. カリキュラム・マネジメントの意味

カリキュラム・マネジメントで学校の特徴や魅力を示す

各学校毎の教育課程の編成

学校の特徴を生かした魅力のある教育課程づくり

グランドデザイン作成の重要性

➡ カリキュラム・マネジメントとして、
学校教育全体を鳥瞰できる図

教育課程を作ることは、

単に授業の予定としての編成表を作ることではない。

子供たちの実態への配慮、

分かる授業への組み立てが重要

2. カリキュラム・マネジメントの意味

カリキュラム・マネジメントの手順の一例

- (1) 教育課程の編成に対する学校の基本方針を明確にする。
- (2) 教育課程の編成・実施のための組織と日程を決める。
- (3) 教育課程の編成のための事前の研究や調査をする。
- (4) 学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を定める。
- (5) 教育課程を編成する。
- (6) 教育課程を評価し改善する。

(学習指導要領解説 総則編 小学校p.43-45・中学校pp.44-46)

3. カリキュラム・マネジメントの具体

3. カリキュラム・マネジメントの具体

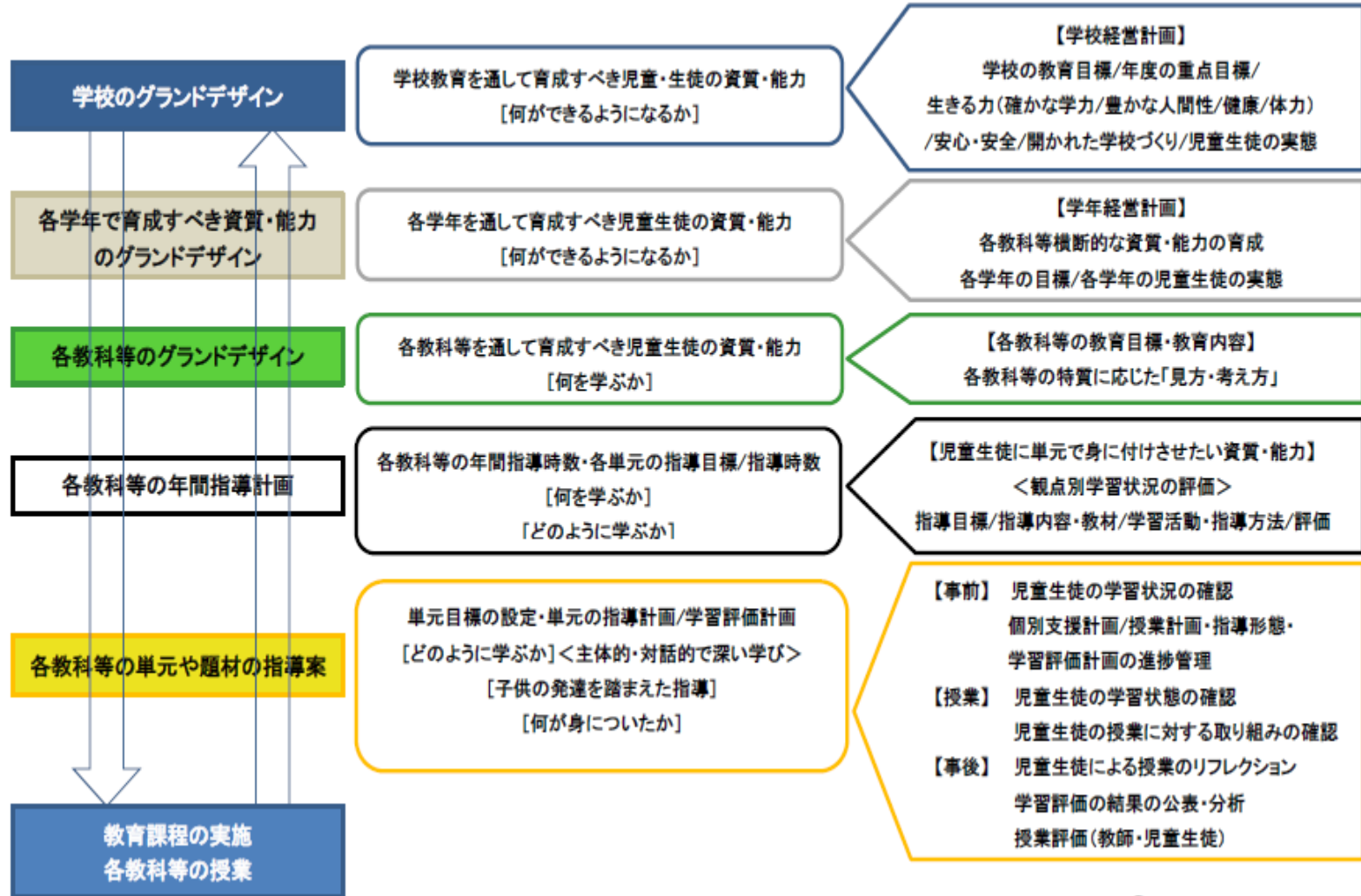
カリキュラム・マネジメントを行う具体の手順

1. 学校のグランドデザイン
2. 各学年で育成すべき資質・能力のグランドデザイン
学年経営計画
各教科等のグランドデザイン
教科経営計画
3. 各教科等の年間指導計画
4. 各教科等の単元指導案（単元の指導計画）
5. 各教科等の単元指導案を基にした「学びのプラン」
6. 上記 1 から 5 の自己点検・自己評価、改善の方向性



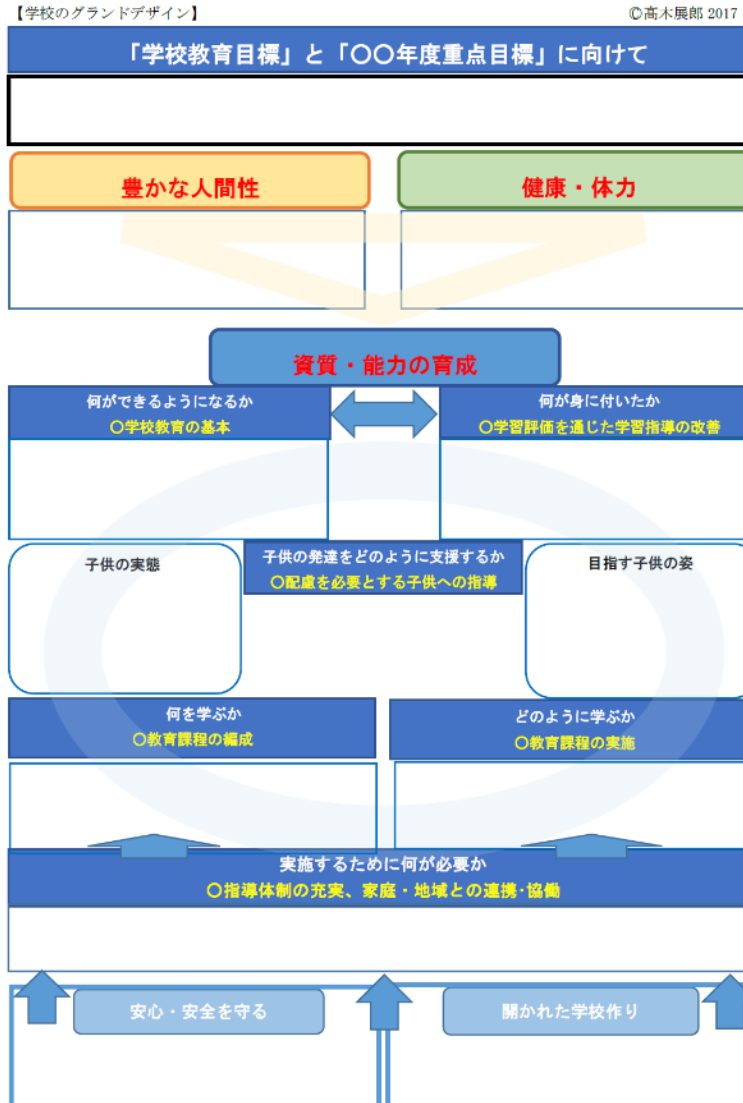
3. カリキュラム・マネジメントの具体

カリキュラム・マネジメント



©高木展郎 2019

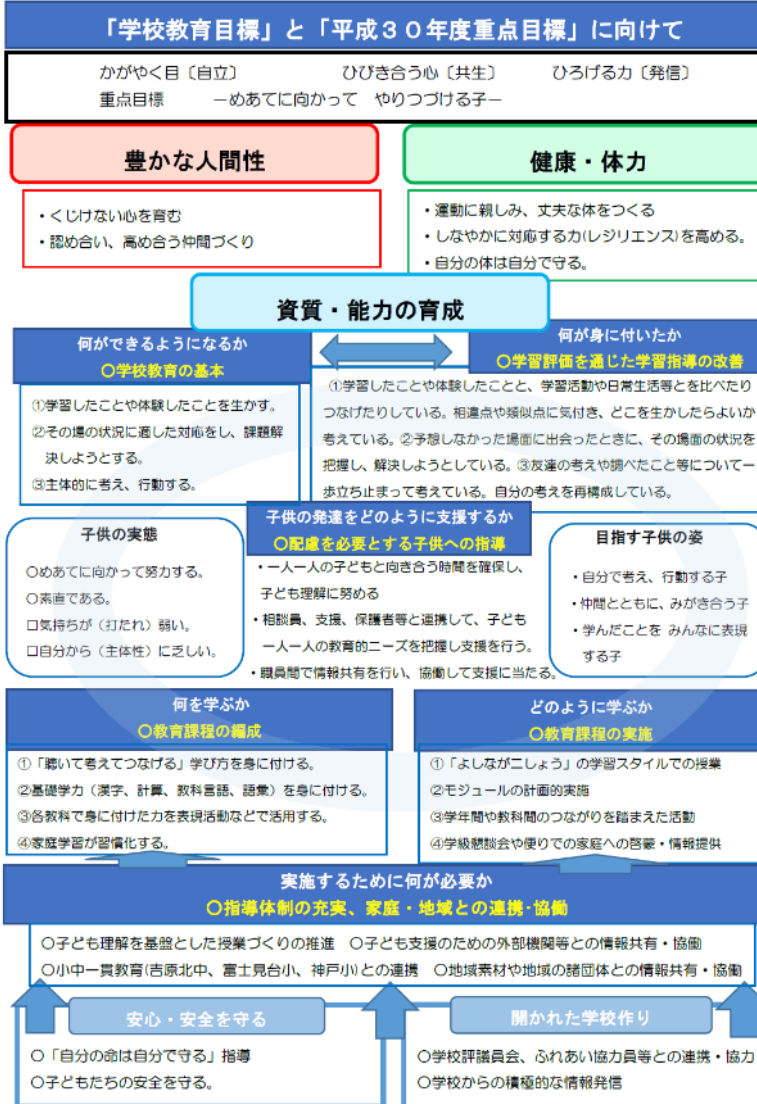
3. カリキュラム・マネジメントの具体



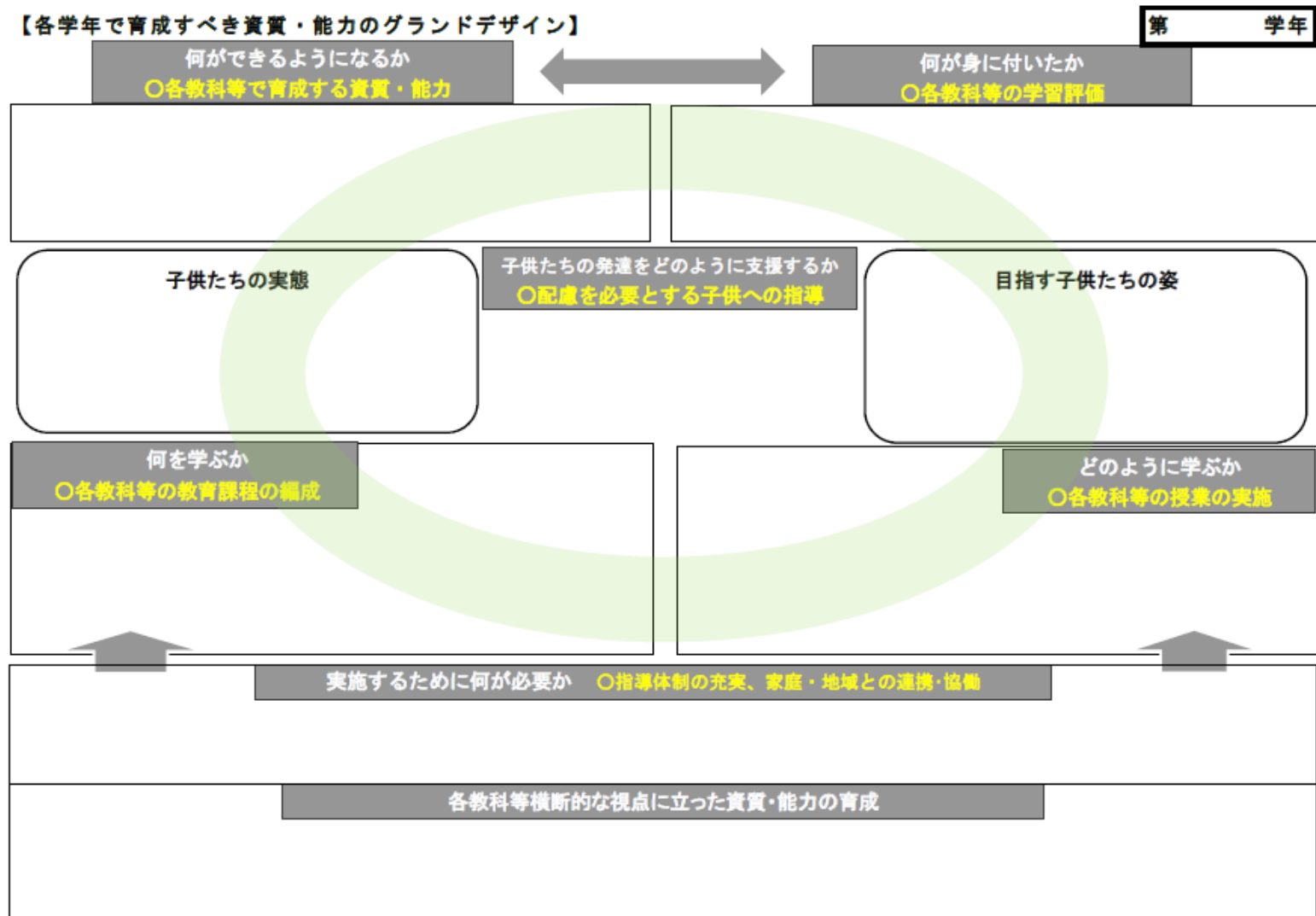
3. カリキュラム・マネジメントの具体

【富士市立吉永第二小学校グランドデザイン】

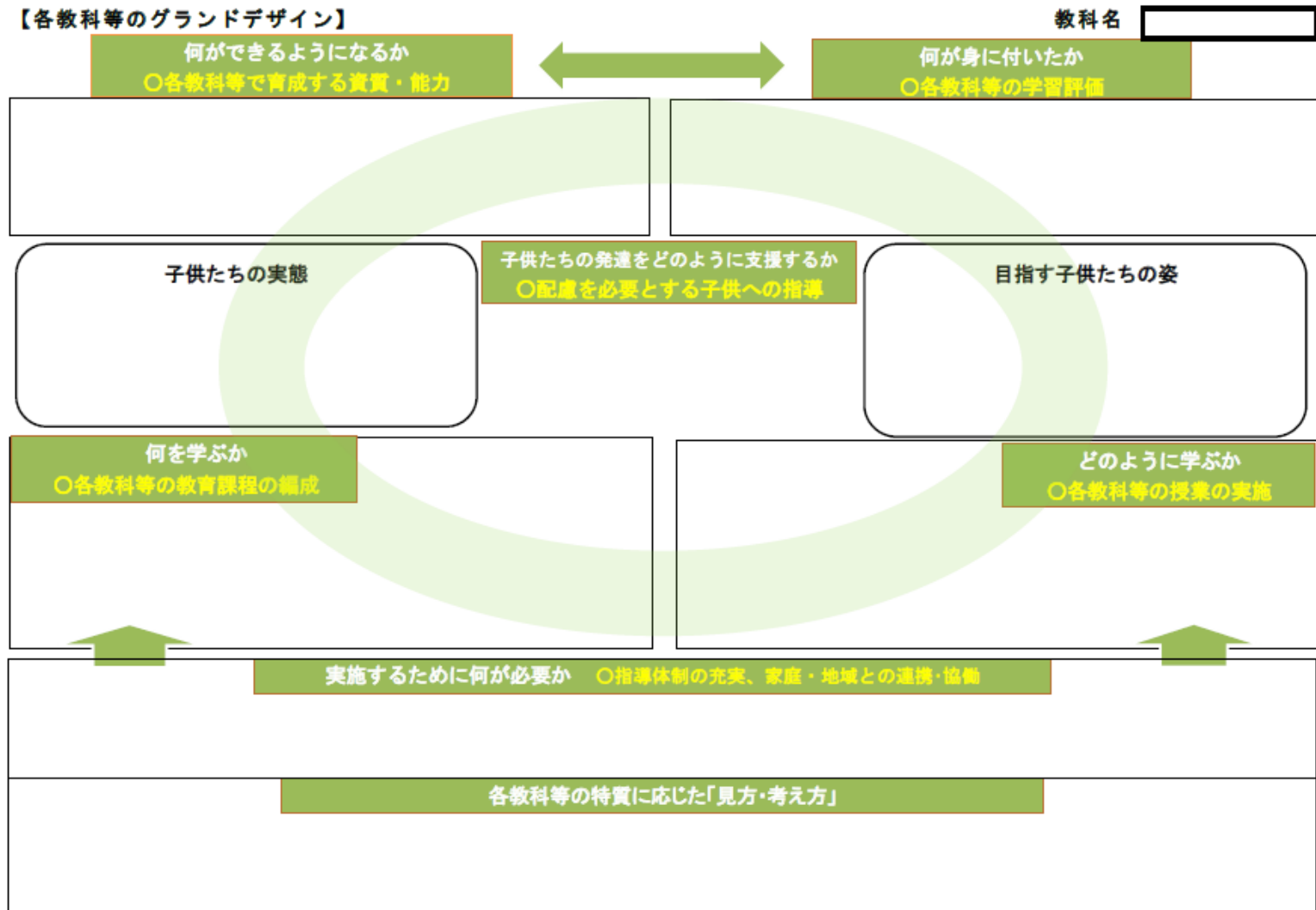
教育課程 30. 2. 22



3. カリキュラム・マネジメントの具体



3. カリキュラム・マネジメントの具体



3. カリキュラム・マネジメントの具体

各教科等の年間指導計画

時期 (月)	単元名	指導 時数	単元目標 学習指導要領に示されている「内容」 の指導「事項」から、単元の目標として 適切な「事項」を選択して示す。 〈学習指導要領からの転記〉	単元の評価規準 学習指導要領に示されている「内容」 の指導「事項」から、単元の評価規準と して適切な「事項」を選択して示す。 〈学習指導要領からの転記〉	単元の具体的な評価規準 学習内容に合わせて単元の内容に合った 「具体的な評価規準」を設定する。 社会 算数 理科等は、学習指導要領「内 容」の「事項」が具体的に示されているた め、「単元の評価規準」を示すのみで、「単 元の具体的な評価規準」を示す必要はない。	評価方法	学習活動	「思考力・ 判断力・表 現力等」の 育成に関わ る主な言語 活動	各教科等横 断的な資質 ・能力の育 成に関わる 他教科等と の関連
4月 月上旬			① 知識及び技能 ② 思考力、判断力、表現力等	① 知識・技能 ----- ② 思考・判断・表現 ----- ③ 主体的に学習に取り組む態度	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度				
4月 月中旬			① 知識及び技能 ② 思考力、判断力、表現力等	① 知識・技能 ----- ② 思考・判断・表現 ----- ③ 主体的に学習に取り組む態度	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度				
4月 月下旬			① 知識及び技能 ② 思考力、判断力、表現力等	① 知識・技能 ----- ② 思考・判断・表現 ----- ③ 主体的に学習に取り組む態度	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度				
3月 月下旬			① 知識及び技能 ② 思考力、判断力、表現力等	① 知識及び技能 ----- ② 思考力、判断力、表現力等 ----- ③ 主体的に学習に取り組む態度	① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度				
指導時 数の合 計									

© 高木展郎 2018

3. カリキュラム・マネジメントの具体

★指導案は、教育課程の編成表に基づいて学校・学年で作成する。したがって、個人名の記入の必要は無い。

〇〇科 第〇〇学年 学習指導案<例1>

1 単元で育成する資質・能力

【この単元の学習で、身に付けさせたい資質・能力を記述する。】

【学習指導要領に示されている「内容」の指導「事項」を基に記述する。】

2 単元の評価規準

【学習指導要領に示されている「内容」の指導「事項」から、単元目標として適切な「事項」を選択して示す。<学習指導要領から始動「事項」を転記】

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕から、その単元で育成すべきものを選んで記入する。	学習指導要領に示されている〔思考力、判断力、表現力等〕から、その単元で育成すべきものを選んで記入する。	左に引用している学習指導要領の〔知識及び技能〕を主体的に身に付けたり（付けるとともに）、〔思考力、判断力、表現力等〕の中から、その単元の最重要課題を「～しよう」としたりしている」として示す。

※実際の記述は、各教科の特性、目標の示し方に合わせて検討

3 単元名

4 単元の学習指導における具体的な評価規準

【学習内容に合わせて単元の内容に合った具体的な評価規準を設定する】

【社会、算数、理科等は、学習指導要領「内容」の「事項」が具体的に示されているため、

「2 単元の評価規準」を示すのみで、「4 単元の具体的な評価規準」を示す必要は無い】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
例) 〇〇を理解している／〇〇の知識を身に付けている 〇〇することができる／〇〇の技能を身に付けている	例) 各教科の特質に応じ育まれる見方や考え方をういて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている	例) 主体的に知識・技能を身に付けたり（付けるとともに）、思考・判断・表現をしようとしていたりしている

5 単元計画

	具体的評価規準と評価方法	学習活動
第一次	1 ここには、「4 具体的評価規準」を学習指導 ・計画に沿って、3観点をそれぞれの「次」の学習 2 活動にあわせて、配置する。	学習活動は、全ての時間の主たるもののみを 記入する。また、上記三つの評価の観点に合った 学習活動とする。
第二次	3 ・この単元（教材）の学習の過程の中で行 う三観点の評価を取り出して、その評価方 法と共に示す。 4 5 6 ・「具体的評価規準」は、単元の評価規準 に基づき、各学習のまとまりで行う評価の 規準として示す。	・「学習活動」は、時間毎に児童が行う具 体として示す。 ・学習のまとまりを整理して、単元（教材） 全体の学習がどのように組織されている かを示す。
第三次	7 8 ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価 は、その単元での学習を通して育成すべ き資質・能力であるので、単元の学習の最終 段階で行うことが多くなる。	・「思考・判断・表現」の評価を行う活動に は、必ず言語活動を学習活動として取り 入れる。
第四次	9 ・評価は、1 時間のみで行うものだけで なく、数時間にまたがる評価もあり得る。 10 ・「思考・判断・表現」を評価するところ では、必ず言語活動を学習活動に入れる。	・言語活動には、記録・要約・説明・論述・ 話し合いの活動を入れる。 ・「振り返り」は、見直しについて行うもの であって、そのためには、時間毎の学習につ いての見直しを明示することが必要であ る。そこで、時間毎の主たる学習活動を示 すことが求められる。

* これまでの 1 時間単位の指導案ではなく、単元全体の中にそれぞれの教科が求めている、「評価の観点」が見えるような指導案が求められる。

3. カリキュラム・マネジメントの具体

〇〇科学習指導案<例2>

第 学年	科 指導計画	(月 週 時間)		
単元の目標 (身に付けさせたい力)				
学習内容	学習指導要領から、単元で扱う指導「事項」からの転記。			
単元名				
評価規準				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
・学習の過程で行う学習評価の評価規準を示す。 ・学習への見通しを持たせるために、授業の最初に児童生徒に示すことを前提に、設定する。				
授業計画				
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	学習活動
第一次	1 ○……………			①……………
	2 ○……………			②③……………
	3 ○……………			
第二次	4	○……………		④……………
	5 ○……………			⑤……………
	6	○……………		⑥⑦……………
	7	○……………		
	8			⑧……………
第三次	9	○……………		⑨……………
	10		○……………	⑩……………

* これまでの1時間単位の指導案ではなく、単元全体の中にそれぞれの教科が求めている、「評価の観点」が見えるような指導案が求められる。

<註>

- 印の評価規準は、その学習段階で求める評価規準を具体的な文章で記述する。
- 各教科等における言語活動は、「思考・判断・表現」の評価において、記録・要約・説明・論述・話し合いの活動を通して評価する。

3. カリキュラム・マネジメントの具体

〇〇科 学習指導案<例3>

単元名：

(1)単元の目標（身に付けさせたい力）

【学習指導要領に示された各教科等の「内容」から、単元の内容に合った具体的な目標を設定する】

- ① 知識及び技能：
- ② 思考力、判断力、表現力等：
- ③ 主体的に学習に取り組む態度：

(2)具体的な評価規準

【学習指導要領に示されている「内容」の指導「事項」から、単元目標として適切な「事項」を選択して示す。指導「事項」の転記】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
例) 〇〇を理解している／〇〇の知識を身に付けている 〇〇することができる／〇〇の技能を身に付けている	例) 各教科の特質に応じ育まれる見方や考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている	例) 主体的に知識・技能を身に付けたり（身に付けるとともに）、思考・判断・表現をしようとしていたりしている

(3)指導と評価の展開

次	時	評価規準と評価方法	学習活動
一	1		①
二	2	【評価規準】 【評価方法】	②
	3		③
	4		④
	5		⑤
三	6	【評価規準】 【評価方法】	⑥
	7		⑦
	8		【評価規準】(主体的に学習に取り組む態度) 【評価方法】

3. カリキュラム・マネジメントの具体

学びのプラン

1. みんなにつけてほしい力
【単元の目標を、児童生徒に分かりやすく、具体的に示す。】
2. 単元名
3. この単元で学習すること

月日		みんなに付けてほしい力	学習の内容
	第一次	1. 2.	・「学習の内容」は、時間毎に児童生徒が行う活動の具体を示す。
	第二次	3. 4. 5. 6.	・学習のまとまりを整理して、単元(教材)全体の学習がどのように進むかを、児童に分かるように示す。 ・「思考・判断・表現」の評価を行う活動には、必ず言語活動を学習活動として取り入れる。
	第三次	7. 8.	・「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、その単元での学習を通して育成すべき資質・能力であるので、単元の学習の最終段階で行うことが多くなる。 ・「振り返り」は、見通しに対して行うものであり、そのためには、時間毎の学習についての見通しを明示することが必要である。そこで、時間毎の主たる学習活動を児童の立場から、分かりやすく示す。
	第四次	9. 10.	・評価は、1時間のみで行うものだけでなく、数時間にまたがる評価もあり得る。 ・「思考・判断・表現」を評価するところでは、必ず言語活動を学習活動に入れる。

- ※ 「学びのプラン」によって、児童生徒に学習の「見通し」を持たせる。
「学びのプラン」は、学習指導案を基に、時間毎の学習目標・学習内容・評価内容を児童の立場から、具体的に示すことにより、児童生徒に単元全体で、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何が身に付いたか」かを、具体的に分かるように示すためのものである。

3. カリキュラム・マネジメントの具体

カリキュラム・マネジメントを用いた学校評価

各学校においては、校長の方針の下に、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努めるものとする。また、各学校が行う学校評価については、教育課程の編成、実施、改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえ、**カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施**するよう留意するものとする。

(小学校学習指導要領総則p.11, 中学校学習指導要領総則p.11)

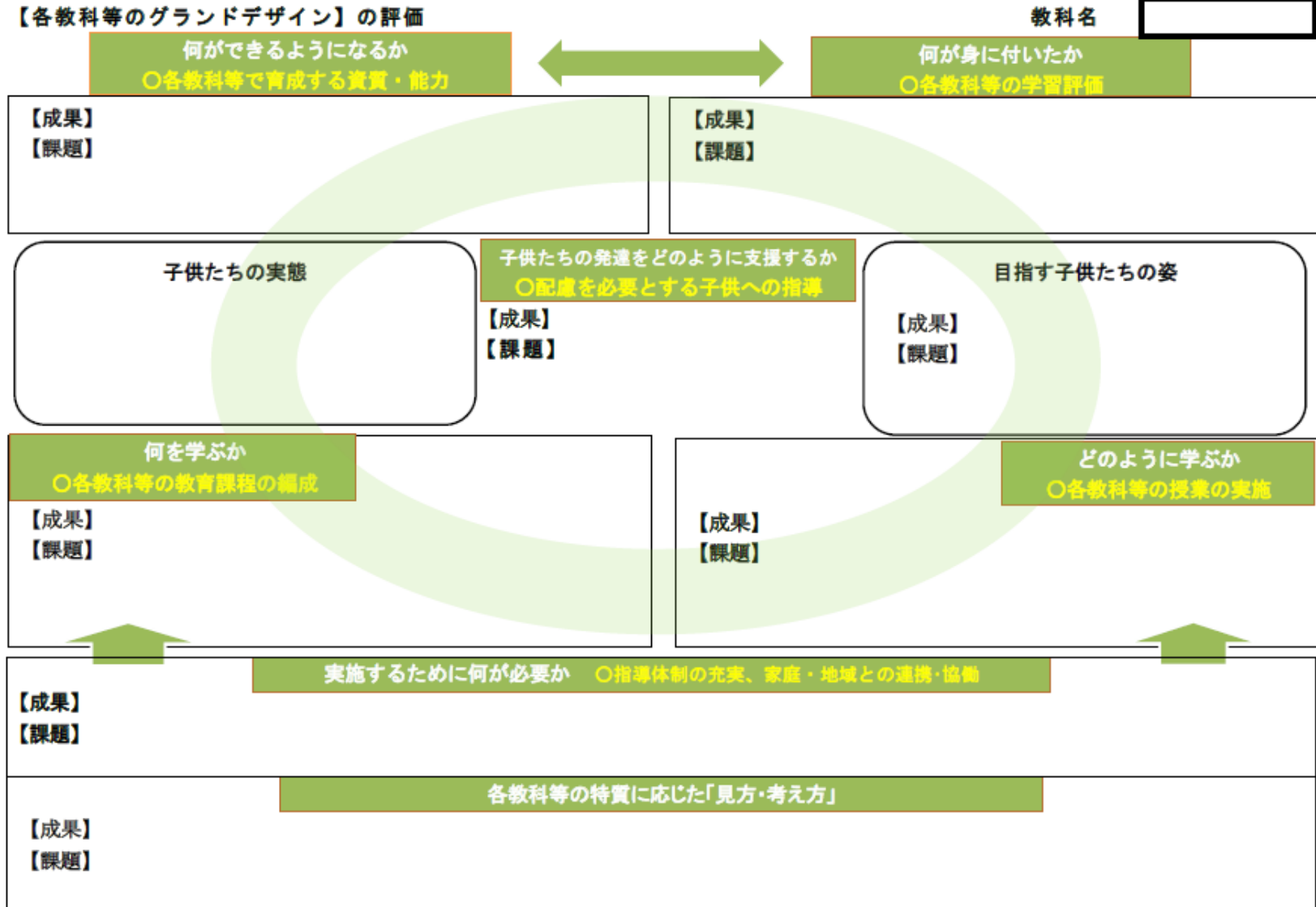
3. カリキュラム・マネジメントの具体

カリキュラム・マネジメントの評価内容

グラントデザインに示した項目ごとの内容を具体的に評価する

1. 学校目標の実現
2. 本年度の重点目標の実現
3. ①「何ができるようになったか」
4. ②「何を学んだか」
5. ③「どのように学んだか」
6. ④「子供一人一人の発達をどのように支援したか」
7. ⑤「何が身に付いたか」
8. ⑥「実施するための必要な条件は適切だったか」
9. 学校の指導体制
10. 家庭地域との連携・協働

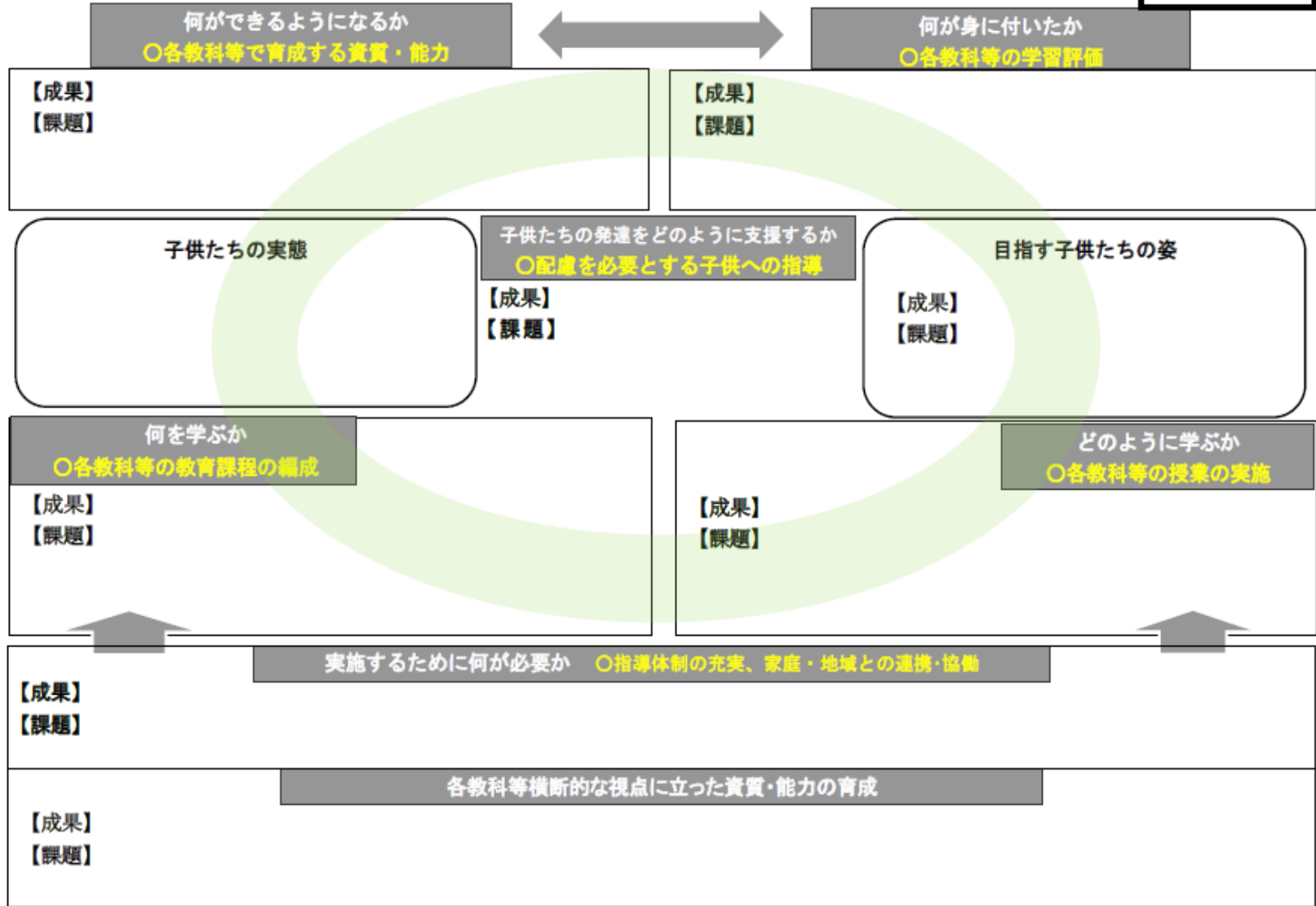
3. カリキュラム・マネジメントの具体



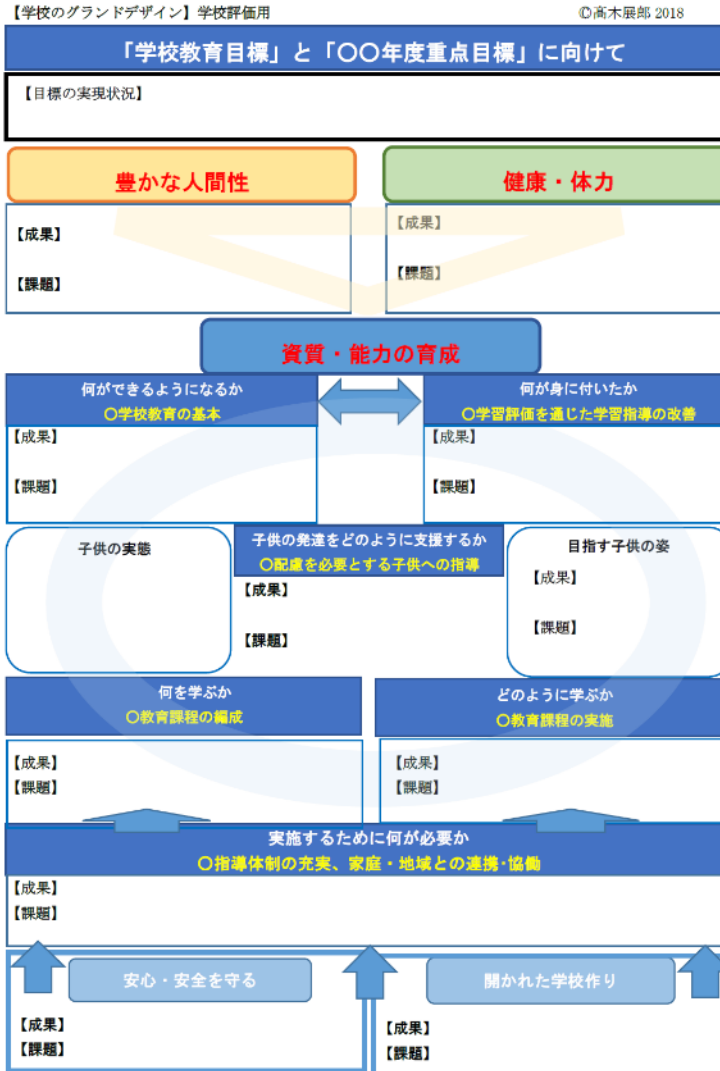
3. カリキュラム・マネジメントの具体

【各学年で育成すべき資質・能力のグランドデザイン】の評価

第 学年



3. カリキュラム・マネジメントの具体

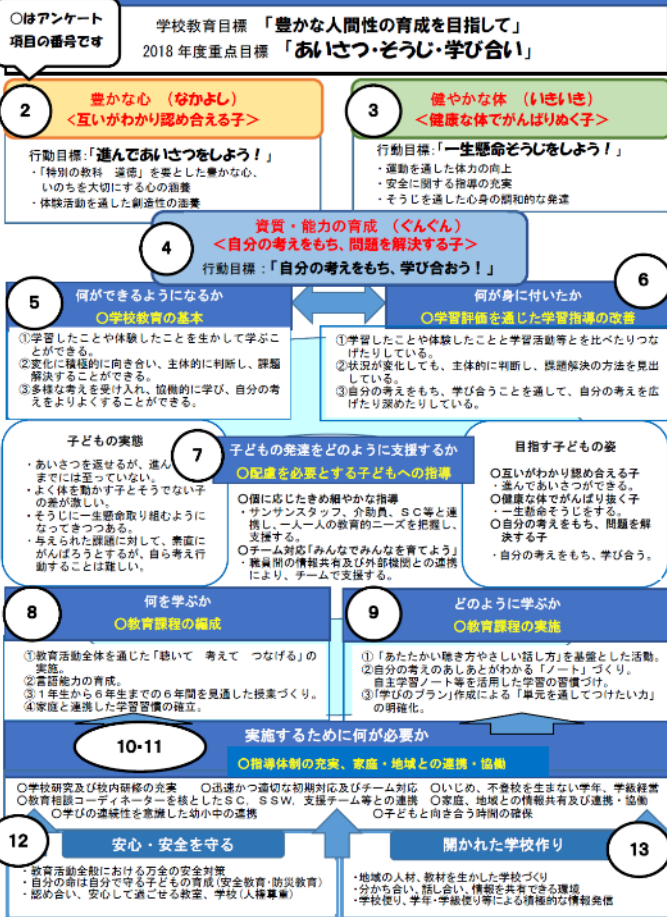


3. カリキュラム・マネジメントの具体

【平塚市立中原小学校 2018年度グランドデザイン】

2018年4月9日版

チーム中原 2018「学校教育目標」と「2018年度重点目標」に向けて



学校づくりアンケート(保護者用)～よりよい中原小学校をめざして～

子どもたちの学校生活をより楽しく充実したものにすため、学校の教育活動や組織について保護者の皆様のご意見をいただき、学校改善の資料にします。
【2018年度グランドデザイン】をあわせて見て、お子さんの様子からお答えください。

A→そう思う B→少しそう思う C→あまり思わない D→思わない
E→分からない (できるだけA～Dでお答えください。どうしても分からない場合のみEに○)

評価項目	A	B	C	D	E
1 子どもは楽しく学校に通っている。	0	0	0	0	0
2 【なかよし(豊かな心)】 学校教育目標の「互いがわかり認め合える子」が育成されている。	0	0	0	0	0
3 【いいきいき(健やかな体)】 学校教育目標の「健康な体でがんばりぬく子」が育成されている。	0	0	0	0	0
4 【くんくん(資質・能力の育成)】 学校教育目標の「自分の考えをもち、問題を解決する子」が育成されている。	0	0	0	0	0
5 子どもは、学習したことや体験したことを生かしながら学んでいる。	0	0	0	0	0
6 通知表や、テスト、プリント、ノートなどを通して、子どもの学習の達成状況がわかる。	0	0	0	0	0
7 子どもの発達に応じて、個に応じた指導やチーム対応等の支援が行われている。	0	0	0	0	0
8 子どもは、家庭学習(自主学習、読書、宿題等)の習慣が身に付いている。	0	0	0	0	0
9 子どもは、授業中、先生や友だちの話を聴いたり自分の考えを述べたりしている。	0	0	0	0	0
10 【中原小学校いじめ防止基本方針】に基づき、いじめや不登校の防止・対応をしている。	0	0	0	0	0
11 学校は、保護者や地域の人の願いや考えを聞きながら連携・協力をしている。	0	0	0	0	0
12 学校は、安全教育・防災教育・人権尊重等により、安心・安全を守ることに努めている。	0	0	0	0	0
13 学校は、学校・学年・学級だよりを発信して、学校生活の様子を伝えている。	0	0	0	0	0

1 2 3 4 5 6 学年 (お子様の学年を○で囲んでください。)

保護者氏名()

ご感想・ご意見・ご要望欄(O-D評価の項目には理由や改善案を、また、良かった面も記入していただくと幸いです。)

学校づくりアンケート(職員用)～よりよい中原小学校をめざして～

※学校全体の評価としてお答えください。

A→そう思う B→少しそう思う C→あまり思わない D→思わない 氏名【 】

評価項目	A	B	C	D
1 子どもたちは楽しく学校に通っている。	0	0	0	0
2 【なかよし(豊かな心)】 学校教育目標の「互いがわかり認め合える子」が育成されている。	0	0	0	0
3 【いいきいき(健やかな体)】 学校教育目標の「健康な体でがんばりぬく子」が育成されている。	0	0	0	0
4 【くんくん(資質・能力の育成)】 学校教育目標の「自分の考えをもち、問題を解決する子」が育成されている。	0	0	0	0
5 「何ができるようになるか」、学校教育の基本を踏まえた学びがなされている。	0	0	0	0
6 「何が身に付いたか」、学習評価を通じた学習指導の改善がなされている。	0	0	0	0
7 子どもの発達に応じて、個に応じた指導やチーム対応などの支援を行っている。	0	0	0	0
8 授業では、「何を学ぶか」について明らかにして取り組んでいる。	0	0	0	0
9 授業では、「どのように学ぶか」について明らかにして取り組んでいる。	0	0	0	0
10 【中原小学校いじめ基本方針】に基づき、いじめや不登校の防止・対応をしている。	0	0	0	0
11 保護者や地域の人の願いや考えを聞きながら連携・協力をしている。	0	0	0	0
12 安心・安全を守るため、安全教育、防災教育、人権尊重などを行っている。	0	0	0	0
13 地域の人材・教材を生かしたり、学校・学年・学級だよりを発信したりして、開かれた学校作りに努めている。	0	0	0	0

3. カリキュラム・マネジメントの具体

各学校においては、まず、【学校のグランドデザイン】を、全教職員で作成してみましよう。その際、大切なのが、子供たちの実態の共有です。

次に、学校目標の共有です。

【学校のグランドデザイン】に書いた内容の合意形成を全教職員で、図ることが重要です。

カリキュラム・マネジメント

～新学習指導要領とこれからの授業づくり～

横浜国立大学

名誉教授 高木 展郎



独立行政法人教職員支援機構